

大阪非鉄金属商工協同組合・教育情報委員会(生地孝委員長)は10日、講師に橋本アルミ取締役の橋本健一郎氏を招き、「世界銅需要予測に基づく日本および中国の非鉄金属リサイクルの現状と展望」と題したセミナーを開催、約40人が出席した。

はじめに川岸理事長が「不況深刻化からメーカーには3連休、4連休どころか、中には14連休のところもあるなど、われわれを取り巻く環境は大変な事態になっている。後は体力勝負しか考えられないが、組合には知恵袋がいる。きょう

大阪非鉄協組セミナー 中国銅需要伸び続く

のような勉強会で少しでもヒントをつかんでほしい」とあいさつした。

その後、橋本氏は米国金融、世界経済情勢から話を進め、世界銅需給に移行。

2002年、米国を抜き世界最大の消費国となった中国は、今や世界銅需要の4分の1を占めるが、1人当たり消費量は日本の9割

に比べ約3割と少ない。

また15年の同国需要は樂觀シナリオで697万ト、悲

観シナリオで622万トと年率5-10%増加、地金やニュー・スクラップの需要増が見込まれるが、オールド・スクラップは10年をピークに減少が予想される。

他方、日本の銅地金需給は、産銅各社の減産などに見られるように需要は再び100万ト以下に落ち込み、伸銅品生産も08年度は1980年以來の低水準となる85万トどころへ20%程度の下振れ、10年までの銅スクラップ発生も大幅に減少するとの見解を示した。



橋本氏が講演